



広報  
Public relations  
NEBA

# ねば

3

2025 Mar.  
Vol.227



- P 2-4 令和7年度予算
- P 5-16 議会だより
- P 17 令和7年度根羽村消防団役員/他
- P 18-19 輝く農山村
- P 20 叙勲/他
- P 20-21 地域おこし協力隊
- P 22 第27回福祉と健康のつどい/他
- P 23-24 国民健康保健について
- P 25-26 30・10運動/他
- P 27 狩猟体験
- P 28 杉っ子だより

## [今月の表紙]

3月5日にやまあいホールにて  
叙勲伝達式が行われました。

[詳細は20ページ]

## 令和7年度予算

## 一般会計 23億8,000万円の予算規模

前年対比 11.74%減

村づくりの基本となる一般会計予算他四特別会計、二事業会計予算が去る3月12日、村議会定例会で可決されました。

一般会計予算では、策定中である第6次総合計画や「ネバーギブアップ宣言2・0」における村の将来像を見据え、喫緊の課題解決を推進するために必要な経費を予算化しました。2年目を迎える「輝く農山村地域創造プロジェクト事業」の拡充、村道改良、村道橋梁補修事業、防犯カメラ、特殊詐欺対策電話設置補助による安心安全な村づくり対策、子育て支援では「入学進学補助金」の交付を保育園児まで拡大し、学園照明のLED化など教育環境の充実、新たに歯科疾患健診などを計画し、前年度と比較して11・7%増の総額で23億8千万円となりました。

## 歳入

例年、歳入の半分近くを占める地方交付税について、国では令和6年度と比較して0・3兆円増額するとしています。当村においては、令和6年度の普通交付税実績額と比べ約15%減の8億7千万円に見積もった予算編成としています。

村独自の収入である自主財源は7億5,926万円余（31・90%）となっています。村税については、令和6年度の

実績見込等から269万円の増を見込んでいます。

一方、依存財源は地方交付税を除き6億5,615万円余で、国県支出金が2億6,051万円余（10・9%）、村債については、前年比39・26%増の2億3,090万円（9・7%）となっています。

また、好調なふるさと納税による寄付金3億5,000万円（14・7%）については、50%を基金に積み立てし、その基金は各事業の財源、繰入金2億2,980万円余（8・53%）として活用をしています。

## 歳出

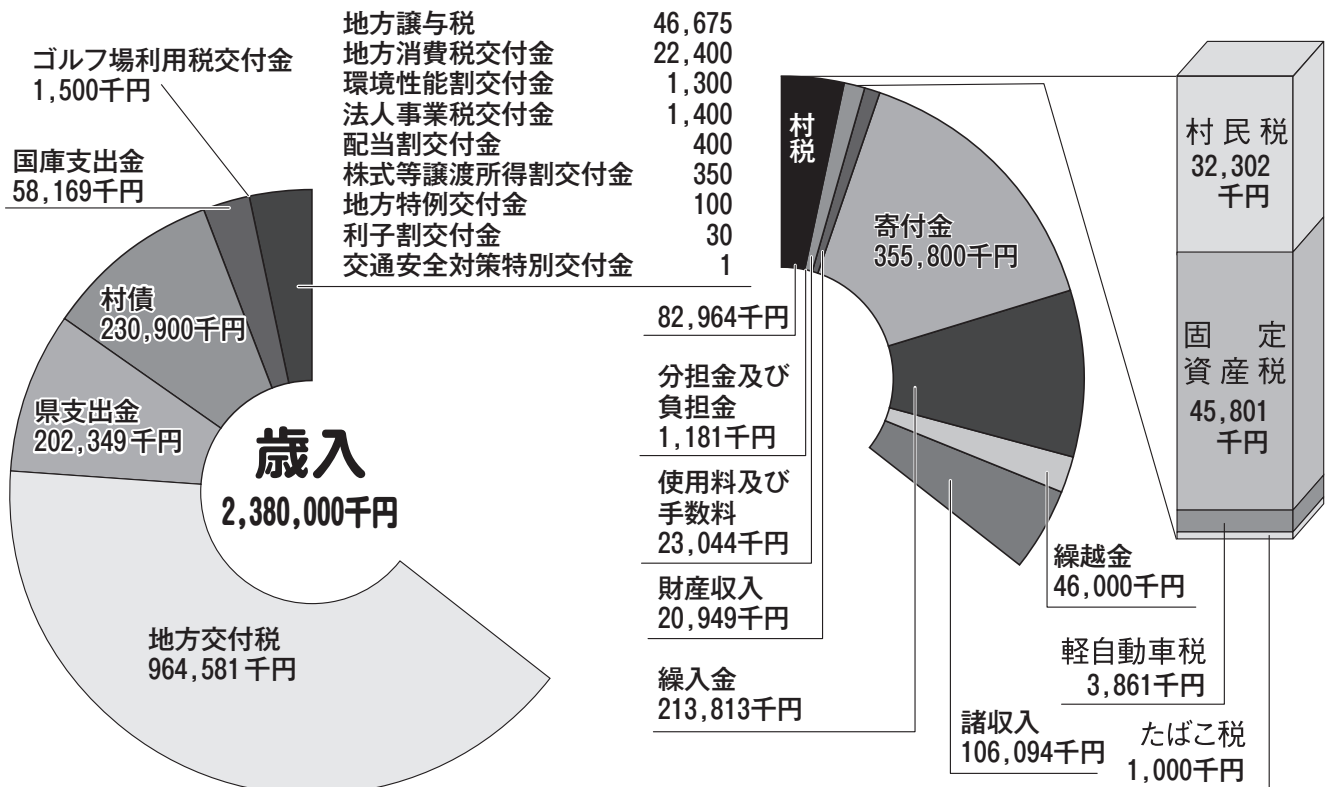
目的別に見ますと、好調なふるさと納税事業に要する経費、輝く農山村地域創造プロジェクト事業経費、地域おこし協力隊経費など総務費が8億4,441万円余（35・48%）、次いで農林水産業費3億2,543万円余（13・67%）、教育費2億6,107万円余（10・97%）、以下民生費、公債費、土木費、衛生費の順となっています。

次に性質別を見ますと、物件費が6億1,245万円余（25・73%）、次いで普通建設事業費4億4,923万円余（18・88%）、補助費、人件費などとなっています。

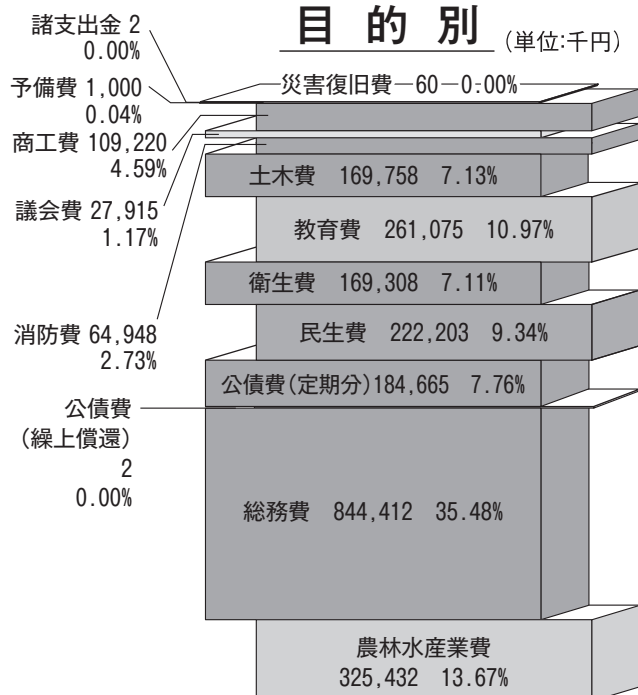
※（ ）は歳入・歳出全体における構成比

## 自主財源759,268千円(31.90%)

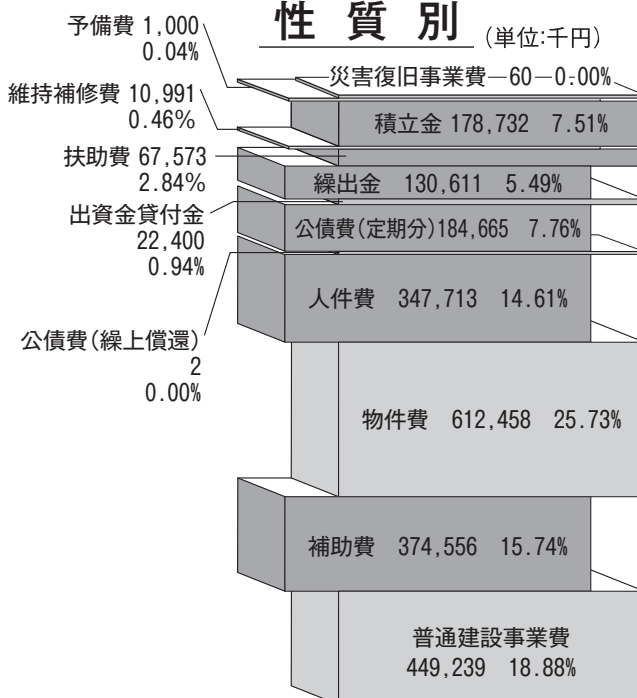
## 依存財源1,620,732千円(68.10%)



## 目的別 (単位:千円)



## 性質別 (単位:千円)



## 令和7年度の主な新規事業

区分	実施事業
総務費	【旧保育所改修工事】 杉っ子が利用する旧保育所作業所を保健所の指導により改修します
総務費	【お試し協力隊・協力隊インターン事業】 地域を知り、村での活動を目指し、お試し協力隊では村に3日程度、協力隊インターンでは最長3カ月間の活動を行います
総務費	【地域活性化企業人事業】 村の情報発信に関するブランディングデザイン、関係人口づくりなど、大都市圏の企業、企業に属する方と連携した事業を実施します
総務費	【防犯対策推進補助】 地域・個人が設置する防犯カメラ、特殊詐欺対策防止電話設置に対する補助をします
民生費	【福祉バス更新事業】 福祉バスの更新をします
衛生費	【診療機器購入事業】 20～70歳の住民を対象に、歯科疾患健診を実施し、口腔健康推進を図ります
衛生費	【歯科疾患健診事業】 デジタルX線の同読取り機器を購入します



区 分	実 施 事 業
農林水産業費	【フォークリフト購入事業】 農産物搬送用のフォークリフトを購入します
農林水産業費	【ネバーランド機器更新事業】 アイスクリームの原材料を均一に混ぜる機器を更新します
土木費	【道整備交付金村道改良事業】 道整備交付金を活用し、外山地区北-38号線の法面工事を行います
土木費	【村道メンテナンス事業修繕計画策定事業】 橋梁の安全点検の結果から羽根坂橋（新井）の修繕工事と、明林橋（外山）の修繕設計を行ないます
教育費	【保育所お遊戯室エアコン設置事業】 保育所お遊戯室にエアコンを設置します
教育費	【学校施設整備事業】 学園教室等の照明器具をLED器具に更新し、環境整備と電気消費の軽減を図ります
教育費	【学園給食機器更新事業】 学園給食調理室の食器消毒保管機及びガス炊飯器を更新します
教育費	【社会体育施設整備事業】 森沢にある弓道場の大型サッシの改修工事を行ないます

## 各会計別予算の比較

（単位：千円）

区 分		令和 7 年度予算額	令和 6 年度予算額	比 較	比 率（％）
一 般 会 計		2,380,000	2,130,000	250,000	11.7
特別会計	国民健康保険特別会計	81,000	104,000	△ 23,000	△ 22.1
	介 護 保 険 特 別 会 計	218,418	207,318	11,100	5.4
	根羽村営バス特別会計	34,650	19,400	15,250	78.6
	後期高齢者医療特別会計	21,000	22,000	△ 1,000	△ 4.5
	特 別 会 計 合 計	355,068	352,718	2,350	0.7
合 計		2,735,068	2,482,718	252,350	10.2

### 公営企業会計

区 分	令和7年度予算額	令和6年度予算額	比 較	比 率（％）
簡易水道公営企業会計	91,401	110,177	△ 18,776	△ 17.0
下水道公営企業会計	122,652	121,746	906	0.7
合 計	214,053	231,923	△ 17,870	△ 7.7

※ 公営企業会計は資産を計上した金額になります



## 3月 定例会

### 一般会計

### 補正予算等

### 23議案に

### ついて審議

3月4日・5日・10日・12日の四日間にわたり、3月定例会が開催されました。内容については、次のとおりです。

## 一般質問

### ◆片桐康孝議員

機能化するマイナンバーカードの管理について

●マイナンバーカードを持たない方へは今後どのような説明をしていくか。任意であることから地域として進められるか。保険証の紐づけない方にはどのような周知をするか。

●マイナンバーカードには個人情報凝縮されているが個人情報管理に対して、村でのコンプライアンス等の取り組みはどのようなになっているか。

●有効期限の管理は国が自治体が両方で行っているのか不明だが村としてはどう周知を行うか。

●マイナンバーカードの破損、紛失への対応はどのようなになっているか。

### 村長

●マイナンバーカードについては基本的な個人情報協力の管理は全て国が行っている。地方自治体においては、カードの発行受付、発行手続きが業務となっている。その情報管理に関するものはできないという形になっているのが基本となっている。現在当初のマイナンバーカードの取得率については82・4%であり、従来の健康保険証については、令和6年の12月2日以降新たに発行されなくなっている。また、従来の保険証は有効期限までの間、最長1年間は使用できるとなっている。また国民健康保険や後期高齢者医療保険加入者については、有効期限が令和7年の7月31日となっており、有効期限が切れる場合でも、必要な方には資格確認証が交付されるため、特に不便は生じないと理解している。今年1月発行の広報誌にも具体的なことは記載しており、引き続き広報していきたいと思っている。マイナンバーカードの取得や保険証の紐づけについても任意とは言いがた、村としても強制

はできないが引き続き呼びかけをしていく。参考までにマイナンバーカードと運転免許証の一体化については、令和7年の3月24日から運用が開始されるという情報は承知しており、詳しい情報もわかり次第、お知らせできればと考えている。

●コンプライアンスの取り組みについて、ご承知のようにマイナンバーカードには氏名、住所、性別、生年月日、個人番号、顔写真が入っており、ICチップに関しては税や年金とか病歴等のプライバシー性の高い情報が記録はされていないという状況である。また、個人情報国が全て管理をしているのが現状である。また、マイナンバーカードに限らず、個人情報の管理については既に村で取り組んでいる様々な取り組みと同様な形で、コンプライアンスの徹底を図っていきたいと考える。

期限関係の通知が送付され、それぞれ更新手続きを行うこととなっている。

●紛失等に関して、マイナンバーカードを紛失してしまった場合は、申請者本人がそれぞれの市町村役場で再発行の手続きができるようになっている。カードの再発行手数料は、800円また、カード搭載の電子証明書の発行が200円必要とされており、窓口へ来ていただければ再発行ができるということになっている。こういった面もまた広報等を通じて何回かPRをしていく。

### 議員

村長が言われた通りマイナンバーカードは全てが任意であるということから村の対応も様々なケースが想定されており、複雑化していくが、個人データが凝縮されていることから、情報の流出等ないように今後もコンプライアンスの定期的な実施は必要不可欠なのでしっかりとした対応を、これまで同様をお願いする。時折マイナンバーカードスマートフォンなどのケースに入れている方も見かけますが、スマホは磁気を帯びているのでカードキーの環境には大変よくないかと思われる

が、こういったことも併せて周知していったほしい。

### 農業集落排水の管理について

●当村の下水道水管の点検はいつどのように、どのような方法で行われていたか、あるいはこれから点検する予定があるのか、点検が行われていたとすればその結果はどうであったか。

●下水管の点検の際、空洞化のあわせて調査することを提案するが、村長の考えを伺いたい。

●点検結果を広報誌など村民に公表してないようであれば、公表してはどうか。

### 村長

根羽村農業集落排水については基本的に2ヶ所あるという理解をしていたが、まず1ヶ所が根羽地区で農業集落排水事業で実施した。これは供用開始が平成14年の10月1日からで、管路延長は約20キロになっている。それから小規模集落排水事業が高橋地区で行われており、供用開始が平成8年の4月になり、管路延長は約1キロになっている。根羽の管路については、主にVP管が入っており、径は70ミリから200ミリが入っておりのが現状である。

●下水管の点検では農業集落

排水事業、根羽地区の関係で、令和2年度に国庫補助事業で、長寿命化計画による最適化整備構想を策定した。その際に管路等の機能診断の調査委託業務を管理する長野県土地改良事業団体連合会に委託した。調査方法は、マンホールとマンホールの間を懐中電灯等使用して光で照らし、管路の歪み、ひび割れ、腐食等について目視で点検を行った。この調査結果で、経年劣化は見られるものの、点検した環境全てが健全度という最上位であって、緊急の対策や調査の必要が特にないという事で報告を受けている。小規模排水事業については特に点検をしていないのが現状である。

● 下水管の点検の際に空洞化も調査をしていくかという提案について、今後管路等の点検については、今申し上げたように管理団体の長野県土地改良事業団体連合会と相談しながら実施をしていきたいと考える。提案の空洞化についての調査についても同様に管理団体と連絡をとりながら、実施方法等を含めて検討したいと考えるが、通常の目視点検、

通常の管理の中でも道路の陥没等の部分について、確認することできるので、村民の皆さんからいろいろな通報等を受けるなど、引き続き気を配って管理をしていきたいと考えている。

● 点検結果を広報して公表してはどうかということについて令和2年度と具体的な公表結果は多分していなかったと思うので、今後こういった場合は広報紙等で広報していきたいと考えている。

議員 当村の農業集落排水は20年ほどと比較的に新しい部類に入り腐食しにくいと村長の説明があった通りであります。しかしながら度重なる地震の影響や漏洩がなくても、村独自の地下水が空洞化を作る可能性も十分あるかと思っています。また八潮市の陥没事故を受けて急遽点検を始めた行政もあります。当初においても、万全な体制をとり想定外ということがないよう、定期的な点検を各地に行っていたが、村長が申されたように結果を村民周知していくことをお聞きし、それに農業集落排水による安心感や信頼感が生まれるのではないかと考えております。今後も村民が安心して日々暮らせるよ

うな益々のご尽力をお願い申し上げます。

◆ 片桐紳一郎議員

● 教育の中間支援組織について

議員 そもそも教育における中間支援組織とは何か。

教育長 中間支援組織とは、内閣府のNPOのホームページに立って社会の変化やニーズを把握し地域における様々な団体や団体間の連携を支援する組織、資源、各人、物、金、情報等の橋渡し、団体間のネットワークの推進、価値の創出、政策提言や調査研究とある。そしてこれを教育に置き換えると、1つ目として村と学校、村の日常を繋ぐネットワーク的な役割、2つ目として村や学校に対し、何らかの提言、調査研究、教育的価値の創出を行う。3つ目として、村に寄り添い、人、物、予算、情報に関わる伴走支援を行うというふうに考えている。

議員 中間支援組織設置設立の目的は何だったのか。

教育長 村では、学びの村作りを掲げており、中間支援組織の目的1つ目は、学校と村との連携。次に、保育所、学校を支える仕組み作り。3つ目に、子供と大人の学びを繋

ぐ社会教育の仕組み作りが主な目的であると考えている。

議員 この中間支援組織を始めるにあたり、根羽村の学校の教育事情を分析した結果はどうであったのか。また、学校現場や保護者からの要望等から、この中間支援組織が必要であるという判断をされたのか。

村長 それでは昨年の答弁も踏まえて少しお答えをさせていただく。まず村内のICTの活用推進、そして教育の魅力化、村営塾の立ち上げおよび運営サポート業務についてはご承知のように令和5年の10月から総務省の地域おこし企業人の制度を使って、東京に本社のある株式会社ファンディングベースと契約をしてやってきた。そしてちょうど3年間の契約が満期になる時点で、引き続き契約を更新しながら進めていきたいというお話をしていた。ただし今までのやり方では今までやってきたノウハウがそんなに残らず、企業としてのノウハウだけになってしまいうということが非常に懸念されるということとで協議をしていたが、なかなかそういった部分の協議が折り合わず、昨年の3月をもってこの契約が終了するこ

ととなった。こうしたことから、学習支援や活動拠点等、地域の教育を取り巻く環境の構築ですとか課題解決のためには、新たな組織を立ち上げて地域で運営していく必要があった。こうした役割を持つ組織を立ち上げることをまず1つ検討するが、それと同時に喫緊の課題としては、今まで行ってきた様々な学びの環境を保全する維持することとを目的として中間支援組織の立ち上げと運営支援が必要となった。そうした中で、中間支援組織について現在研究を進めているところで、学びの村作りにおける村全体での学校教育を支える仕組みや、子供と大人の学びを繋ぐ社会教育との関連ができる組織として立ち上げを目指しており、学校、校長先生と話をする中で、こういった組織が稼働できれば学校としても非常にありがたいという意見を踏まえ、今まさにその検討に入っているのが現状である。

議員 例えばなぜ令和6年度当初予算の説明の折に具体的な計画の説明がなかったのか。具体的な説明がないまま、先の見通しがしっかりないまま、議会へ提案され、予



算化する考えであったのかどうか。

**村長** 先ほど述べさせていただいたように、予定していたファウンディングベースの委託契約が終了したことにより喫緊の課題として、これまでの学びの環境を保全する対応をとることと、新たな村内での組織立上げが必要であると判断し、昨年の当初予算には計上させていただいた。予算説明時に説明をさせていただいたが、内容に十分納得されていなかったのではなかろうかと思うところであります。これについては反省をさせていただきたいと思いますが、中間支援組織の必要については先ほど説明した通りであり、ご理解等いただきたいと思います。今まさに検討中であり、いろんな機会でどんな意見をお出しただければと思います。また繰り返しですが、昨年度に説明不足であったのご意見については、真摯に受けとめさせていただいてしっかりと説明をさせていただきたいと思っています。

## ●防犯カメラとガーディアン72について

**議員** 防犯カメラの必要性等について、どのような内容を検討してきたのか、そして今

後の方向性について具体的にお示ししていただきたい。

**村長** 今年長野市で起きた凶悪事件については、防犯カメラの存在が大きくクローズアップされたところは皆さんもご承知のことと思う。そうは言っても、防犯カメラの設置については、メリットデメリットがあり、公共施設の設置はこれから必要となっていくと考えておりますが、過去においてそんなに回数あるわけではないが設置について検討した。反対意見もあり進んでないのが現状。今後特に公共施設に関しては、しっかりと意見を聞きながら設置をしていきたいと考えている。それから、個人や団体等からも防犯カメラの設置の要望も聞いており、今年度、新たに地域や個人で防犯カメラを設置する場合等、振り込め詐欺の電話等も非常に大きな課題になっているため、詐欺防止用の電話の設置についても補助を検討し総額予算であるが、予算計上させてもらっている。まず具体的な内容については時間をもらいながら実施までに検討していく考えだが、新規にこういった事業を取り入れ、決定次第また村民の皆さんになるべく早い時期

にお示ししていきたい。

**議員** ガーディアン72の箱の中身について一部の職員がその中身を知っているだけで、多くの職員は中身を見ていません。しかも、村民も中身については知りません。ぜひ村民に対して、箱の中身について周知を検討してほしいと要望しており、1月25日の議会議員、職員の防災研修会では、ガーディアン72の箱の中身が全て展示されておりました。村ではやはりガーディアン72の箱の中身や保管場所等について、村民に周知する考えはないのか。

**村長** 災害の発生時に72時間分の飲食物や衣類等の非常用物資がパッケージされている1人分の救援物資を民間の支援によって整備するというのが、G72BOXで、目標としては人口の1割を上限に整備をしたいということで、当村では、その1割、目標の88が備蓄をされている現状。前回の一般質問等で話をしたと思いますが、それぞれの箱には全てシリアルナンバーが貼ってあり、ここで消費期限の管理や、いざ災害があったときに他地域へ支援するときと、消費期限が切れたときにこの部分をまた更新するとい

うようなものをガーディアン72の会社で管理をしているのが現状である。このボックスの中には72品の非常用物資が入っており、内容については写真が小さかったが11月の広報でもお知らせをしている。保管場所についても上町と田島の防災倉庫2ヶ所に保管している。また防災訓練等、機会があれば、再度周知をしていきたいと考える。

●根羽村まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)について

**議員** この戦略はあと1ヶ月で終了であります。定期的な検証結果、PDCAはどうなっているのか。PDCAというのをご存知かと思えますけれども、プラン、チェック、アクションになります。プランは計画、ルールは実行、チェックは評価、アクションは改善です。これらの検証結果はどうなっているのか。

**村長** 根羽村まち・ひと・しごと創生総合戦略について、東京圏への一極集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保、将来にわたって活力のある日本社会を維持していくことを目的に、平成26年に成立した、まち・ひと・しごと創生法に基づい

て、それぞれの地方公共団体で、創生に関する目標や政策に関する基本的方向を定めることとしたものであり、当村でも平成31年度検討する初版を平成28年3月に策定した。初版では、国で示された4つの基本目標に沿い、地域資源の活用、新たな発想で村内の雇用、経済の循環を確保、そして交流から移住定住生活の質サービスの確保と充実した山村暮らしの実現。安心安全な田舎の創造を基本目標にして成果目標を定めて取り組みを進めてきた。初版の実績等については、計画期間の終了時に検証結果として、それぞれ産官学金の関係者等が集まっていただき検証し、当時の議会にもお示しをした。平成31年度末を期限にした初版に続いて令和2年度から5年間のまちひとしごと創生総合戦略第2期を策定しており、引き続き取り組みを進めている。第2期については、諸般の四つの基本目標に加えて2つの横断的な目標が示されており、初版で四つの基本目標を基本的に継続することとし、新たに多様な意見から始める村作り、そして新しい時代に小さな村から大きな変化をもたらすという2つ



の横断的目標を定めて取り組みを進めてきている。第2期の計画期間は6年度末になつており、諸般と同様に検証をする予定であります。産官学金の関係者を含めた委員会を改めて開催し、まだ開催時期については決定しておりませんが、3月末でこの計画終了するため、その時点でこういった検証をし、それぞれ公にしていきたいと考える。

**議員** 第3期の総合戦略についてはあと1ヶ月4月1日から始まるという理解でいいかと思うが、やはりこのPDCAサイクルというのは、計画の策定、実行、評価、改善を繰り返すことでより効果的な計画にしていけるための手法であります。数値目標の結果に基づき検証結果であるとか、PDCAの報告などは議会に諮られるのか。また住民への周知はあるのか。

**村長** この検証の中で産官学金のメンバーに前は議員の皆さんも入っており、今回も多分入られるようになると思うが、いずれにしてもこの検証結果については、議会にもご報告させていただき、また広報等あるいは地区懇談会なるかもわかりませんが、村民の皆さんにも公表をしていき

たいと考えている。

**議員** 村の総合計画と今話している、根羽村まちひとしごと創生総合戦略とは全く別のものになる同じものなのか。

**村長** 基本的には別のものになるが、方向性は全く一緒になっており、この創生計画を作ることに伴い国の交付金事業が得られるというような形になっている。

**議員** 例えば、村民全体に意見を聞くというふうにしたときに、今回出された村作りの根羽村総合計画をまとめる会について興味のある人は来てくださいみたいな形で出されました。こういう会を一度やるだけで、1回の委員会ですべて終わるといふふうにするのか、それこそ住民への説明、住民への意見を聞く機会があり、また産業界の方々から意見を聞く機会もある。教育福祉関係者から意見を聞く機会がある。専門部から意見を聞く機会がある。行政関係者から意見を聞く機会がある。これらを一遍にポンツとやると、それぞれ1つ1つの意見を吸い上げることが本場に可能なんだろうか、それぞれに委員会をもって吸い上げることによってより良い計画戦略ができるかと考える。どうも

1回やったからやりました的な形では、本場にそれが計画というものになるかどうか甚だ疑問が残りますので、ぜひお願いしたいと思います。

### ◆三浦寛本議員

●根羽村簡易水道の令和6年度実施の管路更新計画策定について

**議員** 基本方針の作成として既存資料と現地調査による現状把握をする際、現状把握はどこまで把握できたのか。また現地調査は村全体をどのようにして行い、誰が行ったのか。業務請負業者であれば、現地調査の際、調査状況等を職員の立会い確認は行ったのか。

**住民課長** 本業務ですが、新日本設計株式会社と契約しておりまして、業務期間は令和6年4月26日から令和7年3月31日までとなっている。村の簡易水道事業は供用開始から40年が経過しており管路の老朽化対策が課題となっている。今回の業務では、課題解決のために計画的かつ効率的な管の更新を実施するための管路更新計画を策定すること

を目的としている。現在の進捗状況は、最終的なまとめの段階に入っているという状況。次に現地調査について、

既存資料の確認と現地調査から、現状では管路のデータについては全て把握できている状態にある。また現地調査では、下水道担当職員の立会いのもと請負業者との間の台帳と照らし合わせながら、徒歩にて全ての現地確認を取るという状況です。

**議員** 将来10年から15年先の水道事業の予測、合理性等を考慮した年次計画等の様々な調査を行い、進捗状況等のタスキングを見ながら状況報告をするとのことでしたが、その報告は今後行われる予定はあるのか。またいつ頃であるのか。また7年度においてこの計画に基づいた事業を行うかどうか。

**住民課長** 本業務につきましては現在業務期間中であり、最終的にまとめた報告書が年度末までに提出されるというところであり、その報告書の内容を精査し、どのような形で行えるか検討していきたいと考える。報告事項についても、内容を精査する中で考えていきたい。

**議員** 今の質問の中で通告にはなかったが、この計画に基づいて新年度では、この調査によった計画に基づいた事業を行うのかどうか。

**住民課長** 7年度については今回の報告書を受け、7年、8年とさらに設計について協議し、その後、詳細設計、工事の発注というような流れを考えている。

**議員** 管路更新計画策定により、何年間で整備ができるのかなど村民への周知を聞く懇談会、広報誌、ケーブルテレビ等で計画の概要を示し、その必要な情報を適時調べるとの答弁であったが、これは実際に実行されたのか。今住民課長の答弁の中でまだ3月いっぱいではないとのことであるが、それ前にこういった情報提供等を行ったかどうか。

**村長** 先ほど住民課長が答弁したように、管路の更新計画策定業務を委託しており、まもなく報告書が出てくるという段階であり、特にこれに対するの広報はしていない。いずれにしても今回出てくるこの報告書をベースとし、これから具体的に実施していくか、多分相当の年数と相当の金額がかかると予想されるので、これについては先ほど住民課長が話したようにしっかりと検討をし、どの部分から着手していくのかを決

めて、そしてある程度具体案ができたところで、概要等について皆さんにお示しをしていきたい。

**議員** 今回私がこの簡易水道関係についての一般質問は3回目となります。世間でいう50年問題インフラの点検等、また新聞テレビ報道等で各地で水道管の破裂によるニュース報道がなされております。この点検等につきましては急務であると思いますので、しっかりと計画を作成していただき、村民への安心安全の提供および情報公開をお願いしたい。

## ●既存の社会教育施設の管理運営等について

**議員** 根羽村にある社会教育施設ですが、この使用状況の把握、今後の維持管理および修繕計画等について、近年、全くこの何年間、全く利用されていない森沢テニスコート、茶室、今後の利用および管理がどのように対応するお考えなのか。当然現場を確認していただいたと思います。が、テニスコートは最近草刈り等を行ったみたいですが草の根までは除去されておらず、到底テニスができる状態ではありません。また、森沢交流施設にある茶室および周

辺の庭園は無法地帯となっている。実際に現地確認をしてみても感想も含めて、ご回答をお願いしたい。

**教育長** 以前は中学生の軟式テニス部で使用していたテニスコートですが、近年利用自体がなく、手つかずの状況であった。除草作業したが現在使用できるまでには至っていない。景観を損ねることのないように維持管理をしていく。今後、部活あるいは社会体育等で利用希望の可能性が出てくれば、検討していきたいと考える。茶室についても同様で、利用実態がないままの現状。景観を損ねることのないように管理を進めるとともに、利用促進の働きかけが進むように検討していく。

**議員** そんな中、総合的な予算の関係もあるが、修繕または改良等を行っていく予定はあるのか。通告ではないが、そのような検討もするということのような解釈でよろしいか。

**教育長** 1つ1つをどうするかということよりも、全体としてどうやっていくかという優先順位等もあるので、教育委員会だけではなくて当局と相談しながらということになるかと思いますが、ご理解いただきたいと思います。

**議員** 村民グラウンド、また学園の校庭の定期的な除草の実施はどのようにお考えなのか。根羽学園の校庭に關しましては、昨年のマラソン大会で、校庭を走っている際、除草されていない草につまずいている児童を私は目撃した。村民グラウンドは今の時期は雑草等あまり気にならないが、1年を通じて20センチ以上になった雑草がグラウンド1面に生えており、あのグラウンドで何かスポーツをやろうという気にはならないし、村外の方が訪れたとき村民グラウンドだと、自信を持って案内することはできない。また村民グラウンドの周囲を囲む擬木何ヶ所が崩れているが、その修繕また、総合体育館が学校側の方にある物置等何年も放置される現状を把握しているのか。これから修繕を行う計画はあるのか。こちら

も実際に現地を確認してみても感想も含めてご回答お願いしたい。

**教育長** グラウンドあるいは今ご指摘のあった場所についても確認させていただいた。根羽学園の校庭については学校等と相談をし、現地を確認しながら教育環境に支障がないように困ったことがないよ

うに、非常に悲しい思いをしたお子さんもいらっしゃるというふうな想像が出来たが、適切に除草については対応させていただく。村民グラウンドの擬木については確かにだ

いぶ崩れていたり、鉄の金具が出ていたり、修理が必要な状態ということで認識しております。早急に対応検討をしていきたい。村民体育館の物置についてはあの中にテント、消防器具等入っているが、担当者が必要に応じて確認をしている。現状、特に支障はないが、破損等あれば、予算化、あるいは無理なところがあれば対応したいと考える。

**議員** 屋内ゲートボール場の使用状況の把握はされているのか。現在木材材質置き場になっている状況はご存知なのか。また誰の指示で木材材質置き場になったのか。社会教育施設としての目的を逸脱しているとは思えないのか。屋内スポーツを行う施設としてとても良い施設です。介護予防事業で社会福祉協議会で行っている生きがい教室などに参加される方々への軽スポーツ等の利用、また室内スポーツでできるモルック、パタンク等の利用価値は無限にある。こういったことも

考慮し、今後の利用をどのように考えるか。こちらにも実際に現地を確認してみても感想も含めて回答をお願いしたい。

**教育長** 根羽小学校の校長の頃そこでゲートボールさせていただき、楽しい思い出があったわけですが見たところゲートボールクラブは廃部となり現在の利用実態がない現状。そして現在は森林組合より一時的に借用できないかと申し出があり許可をし現在ハットという販売用の試作品を置いている。それは夏までには移動予定であり、今ご指摘のあったゲートボールクラブが現在ないが代わりのものとの意見についても、検討させていただきたいと考える。

森沢地区の施設についてはご指摘のように、課題意識を共有させていただき、全体として有効な活用方法を検討していく必要があると考える。是非、良いお考えがあれば教えていただければと思うのでお願いしたい。

**議員** 以前の全員協議会でも提案した屋内プールの村民への利用拡大について、検討協議をしていただいたのか昨年行った夜間でのプール開放はとも好評で、屋内プール利



用で、水泳教室やりハビリを含めた健康教育等、住民への健康増進に繋げると思うが、いかがお考えなのか。あれだけの施設を少しの期間利用だけではもったいないと思わないか。検討協議の結果等をお答えいただきたい。

**教育長** 昨年度一般開放については、8月12日夜6時から9時まで開放し、30人の利用があった。今年度についても実施を予定しているが、監視員の資格者を常時2名配置するための人員確保、光熱水費の高騰、あるいは水質管理等々課題もあるので、この解消ができる体制が整えれば、実施できるように進めたいと考える。

### ●観光協会の旧組織の生産および新しい組織体制等について

**議員** 昨年の9月議会にて一般質問した中で、法人化された根羽村観光協会が昨年の12月に解散したことで、今後の観光協会事業について、早急に検討していくと村長の答弁があった。その中には、法人化に伴い、理事となった方々および会員の意見を聞き、早急に検討する考えがあるとのことだったが、理事への意見聴取もなく、代表理事会

長の辞任の申し入れを受けただけで解散したとの経過を聞いた。観光協会の収支報告、決算、会計の残金は約500万円ほどあるとお聞きし、処理の報告も理事会および会員に示されることなく、最終的な理事会も開催しないままでいる現状は異常である。これは観光協会の大問題だけではなく、村としての責任の一端があると思うが、村長の説明を求める。

また、この観光協会の問題提起から4ヶ月くらい経過しているが、早急な検討を行うといった村長の答弁には、疑問を覚える。また、2月になり、商工会の会員を招集し、商工会の会員のみの意見聴取を慌てて行い検討協議を行ったという既成事実を作ったのではないかと思えない。4ヶ月の間、何もしなかったことの説明をどう説明を行うのか。まず、多額の観光協会会計残金の処理および収支等の報告を村民の経過報告も含め行う予定はあるのか。残金の処理はどのような方法で行うのか、お聞きしたい。

**村長** 一般社団法人で運営されていまして観光協会の解散の経緯は、昨年の9月の一般質問でもお答えした通り。昨

年7月2日の一般社団法人観光協会の総会で解散が決定され、グリーンハウス森沢の予約等の関係から、12月末で正式な解散をしたいと観光協会からの申し出があった。また一般社団法人の観光協会は10月をもって解散をして、1月に法人の解散登記ができたという話を伺っている。また、観光協会の会計については、昨年の7月2日の観光協会の総会で報告をされて議決されていると理解している。またこの会計については、一般社団法人の決算会計であり、村で直接対応をするところではないと考えており、観光協会内で適切な処理がなされるものと理解している。

**議員** 残金約500万円とお聞きした。これは村からの補助金が主なものだとお聞きしているが、そういった関係上、あくまでも社団法人の問題であって、村の関与する余地はないというお考えか？

**村長** 昨年度の総会においては一般社団法人の決算がなされており、それを受けて報告を受けるといふ形になるので、村がこれに対して、特に意見をそこで述べるといふことは考えていないが、当然村からの補助金も入っており、

それは、できれば継続するよいうな形になれば一番望ましいと思うが、一旦この決算については、一般社団法人の観光協会で決算されたものと理解している。

**議員** この観光協会の会長は、根羽村には在籍していない方だが、そういった方を指名され、そういった組織ができたと推測されるが、このような事態が決してあってはならないし、500万円余りのお金の保管等、セキュリティ的なことを考えて、どこでどのような保管をするのかお聞きしたい。

**村長** まだ村でといいますか観光協会の組織が決定していないため旧の一般社団法人で保管していると理解している。

**議員** 具体的にその場所はどこか。その事務を担っていたのは、現在役場職員になった方と思うが、その方が管理をしているという理解でよろしいか。

**村長** 通帳を1本で管理しているようで、個人が持つのは非常によくないため一旦振興課で、仮にお預かりしている現状である。

**議員** 法人の解散により観光事業の低迷を起こしてしまっ

たことについて、村は無関係ではないと思われるが、その説明責任についてどう考えるか。また説明を行う予定はあるのか。なぜ9月議会において答弁した通り、早急に検討し、次の組織作りに着手しなかったのか。

**村長** 一般社団法人が設立されたのは民間の方々が理事になり観光協会を運営していく方向で組織され、そこで会長が選任されて一般社団法人で運営されたもの。この民間主導の一般社団法人の観光協会が解散となったことは非常に残念なことであると思う。特にこの解散云々に至ったことに対して、一般社団法人の関係になりますので、村としてそこに対して説明するのは非常にまだ難しい部分があると思うが、新しい観光協会がこれからできてきた段階で、その経過については、説明するよいうな形になると思うのでご理解をいただきたい。また新しい組織作りについては9月の議会でも申し上げた通り、12月末までは一般社団法人の観光協会は一応存続している形であったため、正式に解散となった時点で早急に次の体制に入りたいと継続していたのでご理解をいただきたい。



**議員** 私の聞きたかったことは、法人化の解散により、村全体の観光事業の低迷を起こしてしまったことは、村は無関係ではないと思う点と、9月議会でも申し上げたが、もう解散ありきでわかっている段階で何もアクションを起こさなかったのは、それはいかげなものかと思うがどうか。

**村長** 何もしてなかったという表現が正しいかどうかは別だが、あの当時の一般社団法人観光協会としては活動をしていてと理解するが、なかなか思うような活動ができなかったとの話も聞いているのが事実である。それに対し、

村の観光が低迷したというような形に対してそれをどう答えるかは非常に難しいところだが、いずれにしても解散となったのは非常に残念との思いがある。9月から12月に何もしなかったという話だが、

正式に動き出したのは解散が決まった後からであったが先ほどから申し上げるように、一応新しい組織がある中で、どこが事業主体になるかも未定の段階。そうは言っても、村としては観光協会が必要と理解しているので、ご理解いただきたい。

**議員** 結局何もしなかったということですよ。2月になって、慌てて商工会員を集めて招集し、そこでいろいろな意見聴取をした。9月の段階で解散があるため、商工観光の関係、観点からみても、皆様方のお力お知恵が必要だということ、その時点で動けなかったというのは納得できないが、その点をお聞きたい。

**村長** そういった点、ご指摘もあるかと思う。その点については真摯に反省をさせていたきたい。大変申し訳ありませんでした。

**議員** 新しい観光協会はどのような形の組織にするのか、またいつまでに組織作りを行うのか。

**村長** 多くの方に村内を訪れていただき、滞在していただく。それぞれの場所で経済が循環することが必要であり、

そのためにはやはり核となる一般社団法人であれば任意団体であれ観光協会というのは絶対的に必要であると考えている。そうした中で先ほど言いましたように今年に入り、商工会との話し合い、一般社団法人の前理事の皆さんとの意見交換会、あるいはこれから観光協会に加入されようとして

いる皆さんとの意見交換を行ってきている。現在は商工会の皆さんを中心に呼びかけを行っているが今後、まずはこういった形でスタートするかを含めて、会員以外の団体や、村を盛り上げてくれる方々にも呼びかけをし、そういう地域作りを行っていただこうと思っている。新たな観光協会の設立については、4月を目途に進められればと考える。

**議員** 9月の議会の村長の答弁では、村の皆さんで、自分事として一緒に考えていきたいとのことだったが、なぜ2月に行った際、一部の村民、商工会会員の意見聴取でことを進めていくのか。また一般公募を行い、この件に関心のある方々への呼びかけ、ともに協議検討を行う予定はこの4月までにあるか。

**村長** 当面は商工会の皆さんを中心に立ち上げをしていきたいというような形で動いている。現在の段階では、広く一般という意味ではなく各団体の皆さんにも声をかけながらお話をしており、まずはスタートした段階で、こういった組織になるかを含めて、その組織で、一般の人も含めて広く公募していきたいと考えて

ており、まずはスタートさせたい、そんな思いであります。  
**議員** 今申し上げましたそれを4月までに実施する予定はあるか。

**村長** 一般の人まで含めてというのは難しいかもしれないが、3月の中旬にそういった団体等の皆さんに集まっていたら検討する機会は予定している。

**議員** 最後に今までもそうだが、何をするにも初動が遅すぎる。議会での一般質問が終われば、後は適当にことを進めていくとしか思えない。検討協議の実施の有無、村民への情報公開、幾度となく要望してきた。私も2年間議員をやらせていただいているが、残念ながら残りません。某テレビ局ではないが、根本的な考えを刷新していかなければ、観光事業も含め村の転身はないと思うので、よろしくお願いしたい。

#### ◆松下武久議員 ●村の高齢者福祉対策について

**議員** 社協と介護施設の関係、連携について、現状どのような状況にあるか。

**副村長** 村の社協と福祉施設の連携について、最初にご質問に答える前に現場の高齢

者の現状について少し説明したい。根羽村は現在総人口806名。そのうち75歳以上の高齢者人口が、250人。総人口に占める割合は31%。そのうち約4分の1の65人が介護認定を受けており何らかの介護サービスを受けているというのが現状である。村の介護施設として、地域密着型のなごみとそれから民間の有閑荘がある。なごみでは自宅で生活が困難になる方が入所される地域密着型の特別養護施設。通称介護サービス、いわゆるデイサービス、この事業については、なごみと有閑荘がそれぞれが行っている。利用者の希望や体の状況に応じ、どちらか、あるいは両方を選択して利用しているというのが現状。なごみではその他にホームヘルパーが自宅に訪問し、身の回りの介護をする訪問介護事業、それから一時的に家族が介護できない場合の短期入所する短期入所事業、それからその他に福祉用具の対応事業と、それから介護サービス計画を作成する居宅介護事業を行う事業が6つ、なごみではやられている理解している。その他に、医療伴う訪問看護事業は根羽村ではありません

ので、近隣市町村の福祉サービス業者から提供を受けてる方が数名いらっしゃるというのが現状かと思っている。また社協では高齢者を対象として、介護を必要状況に陥らないために介護予防教室を開催しております。また独居高齢者をおたくに社協では訪問をし、日常生活の状況を把握するとともに、困りごとに

対し、利用者が可能な福祉サービスの情報をお知らせし、住み慣れた根羽村で充実した日常生活が送れるような生活支援サービスに努めている。こうした中で、村には月一度ケア会議を開催して、情報交換を行っている。ケア会議の構成メンバーは、役場から住民課長、介護担当、福祉担当、保健師2名の合計5名、社協からは、事務局と介護の支援員2名、その他に

ごみのケアマネジャーと有閑荘の9名でそれぞれ毎月1回情報交換を行っている。ケア会議ではそれぞれの担当する部署を介護者あるいはそうした高齢者の情報を交換して、高齢者に必要な対応を行っているのが現状である。

**議員** 短期長期における対策ということ、1年間ケア会議等をされ、ケア認定、要介護であるとか要支援であるとかあるが、認定をすると思うが、短期的に75歳以上が先ほど聞いたところで、31%で65人の方が介護のサービスを受けられているふうに伺った。今後この人数が増加する傾向は当然あると思われるが、1年間の計画3年後、5年後ぐらいの計画をされる予定があるかお尋ねしたい。

**副村長** 今後の介護の計画ですが、介護認定については毎年3年ごとに介護料金の見直し等もあるので、そういった観点で計画をするわけですが、現在なごみでは、25人の方が入所をされており、デイサービスでは、毎日6人から12名程度が利用されている。また訪問では4名の方が利用されているというふうに聞いている。有閑荘では現在5名の方が利用されている。入所については、3年ほど前まで常に7人から8人程度が待機者となっていたが、現在は1名ないし2名という状況。なごみの利用者の、年齢を見ると68歳から100歳を超え

る方々が利用しており、平均的な年齢は90歳で、おもに85から95歳の方が主に利用されている。人口が徐々に減ってきており、団塊の世代の

と言われる1947年から1949年に生まれた方々が、現在77歳から75歳になり、これから5年後10年後にこうした方々が介護サービスを受けると認識している。ここを境にして67歳ぐらいまでで、若干年齢によつて違うが、15人から25人ぐらいの方がずっとおられるという現状。根羽村の人口構成から考えると、こうした団塊の世代が今後5年後10年後から利用すること

を考えると、しばらく施設の利用者も現状と同じような形が続くのではないかと思っている。ただ、社協で今介護予防をし、介護認定者の全体人口を比較すると、5年前は全体人口の中で約10%が介護認定を受け、何らかのサービスを受けているという状況。現在は、約人口に対する割合は8%であり、人口が減つてくるということもあるが、全体を占める割合からすると若干少なくなつてきているのが現状。これは介護予防事業が少し影響というか、介護認定に割合が少なくなつたというように分析している。将来的には67歳ぐらいが、実際に介護を受ける85歳に到達するまでは、現状とほぼ同じ、若干少

なくならないかと思

をしている。

を

を

を

を

を



等の介護用品の支給を行って  
いる。また介護者の精神的な  
負担の軽減を図るために、介  
護者の交流会を開き、情報交  
換や介護技術の取得を行うよ  
うな事業を行っている。社協  
ではそんな全員が年1回程度  
であるが、そうした活用訪問  
をし、各家庭の状況を把握し  
てそれぞれケア会議に反映し  
て対応している。

**議員** 災害時非常時における  
対策について、予期せぬ災害  
というのはいずれも起きうる  
今の現状からすると、1人で  
暮らしている高齢者さんだと  
か、そういう方が点々と暮ら  
していると思うが、その人た  
ちの行動を緊急時にサポート  
していくのか。それにはやつ  
ぱりその地域の方たちと杜協  
なり、行政が一体となって、  
きちんとした政策を立ててな  
いと緊急時に対応できないこ  
とも考えられるので、そうい  
うことに対してどうお考えか  
お聞きしたい。

**副村長** 災害時の高齢者への  
対応ですが村ではドックや高  
齢者の世帯について、名簿を  
常に整理し、災害時に迅速に  
対応できるようにしておりま  
す。しかし災害の規模や種類  
にもよるが、災害が発生した  
場合、村職員のうち、若い職

員は消防団員として災害の復  
旧に、残った職員で、避難所  
の開設、安否確認、災害状況  
の把握など情報収集。また水  
道や下水のインフラ施設の確  
認など、多種多様な業務を迅  
速に行う必要があるかと思ひ  
ます。こうした中で村職員が  
全て弱者に対して手を迅速に  
差し伸べるということは非常  
に困難だと考えており、地域  
で支え合うことは非常に重要  
だと考えている。そのために  
村では住民支えあいマップを  
作成し、地域全体で支援をす  
る。情報を共有し、いざとい  
うときに、地域、村、杜協が  
一体となつて対応することが  
必要だと考える。防災マップ  
については毎年更新しながら  
毎年行う防災訓練で、その情  
報を住民等で共有し確認をす  
るとともに、共助の精神を持  
っていたくことを重要だと考  
えており、その際に住民にも  
ご説明し、地域で支え合える  
体制をさらに充実していきたい  
と思っています。

**議員** 今ある介護施設有閑  
荘、なごみでは最近コロナで  
職員、利用者さんに感染が  
あったりして、かなり厳しい  
状況になったんですが、その  
際村、杜協として、どの程度  
認識して何かできることが

あったかお聞きしたい。

**副所長** 先般なごみでは、コ  
ロナが非常に職員あるいは利  
用者の中で感染し、一時閉鎖  
というような状態になったと  
思っている。こういった感染  
症については、村全体の中で  
防ぐことはなかなか厳しいわ  
けだが、それぞれの施設の中  
できちんとした体制をとつこ  
と、またそれは発生した際村  
としてそこに対してマスクだ  
とか、救護のエプロンだとか、  
そういった用具については、  
施設に対し支援をさせていた  
だいた。ないに越したことは  
ないが村とすれば、こういった  
ことは防ぎきれない部分があ  
る。まず発生した場合の対  
応は今後も引き続き取れるよ  
う準備していく。

**議員** 物品のことはともかく  
一番問題になってくるのは杜  
協も、なごみも有閑荘も利用  
されてる方もいる中で、デ  
イサービスが閉鎖された場合  
に、その人たちへの杜協の方  
の協力も必要になってくるか  
と思われるが、その点につい  
てはどうお考えか。

**副村長** 利用者の発生につい  
ては先ほどのケア会議も含  
め、どなたが感染しているか  
という情報は村でも共有して  
いるので、家族も含めて、利

用者の、例えば杜協では、介  
護予防教室に参加者の健康状  
態も当然把握して努めて事業  
を実施しており、おかげさま  
で杜協では事業を継続して  
行ってきましたが、当然健康  
を管理する中で特段そういつ  
た方はおらず、熱が当然出た  
方がおればその方には休ん  
だり、家族にも注意喚起をし  
てきた。おかげさまでその間、  
杜協では発生者もなく事業を  
実施してきたというのが実情  
です。

**議員** 介護職員ヘルパーの育  
成について、現在杜協5人の  
職員がいるとのことだが、社  
会福祉士であるとか、初任者  
研修を終えているか、きちん  
としたものが取り入れられて  
いるのかどうか。

**副村長** 杜協の職員は現在5  
人ほどということですが、上  
げたが、現在看護師が1名、介  
護研修を受けた者が3名おり  
ます。昨年2名新しく入った  
が、この方についてはまだ資  
格がなかったが、今年1名に  
ついては、1年かけて、通い  
で初任者研修の資格を取得し  
た。一昨年入った職員は、な  
ごみの研修を受けて、さらに  
上級の介護士資格を取ってき  
ている。今後、数少ない職員  
ですが、交代でさらに上級の

資格を取りながら、地域住民  
の皆さんの介護、ケアができ  
るような体制をとっていき  
たいと思っております。

**議員** 今5人の体制がそうい  
う形で社会福祉士さんは不在  
との理解でよろしいか。やは  
り介護職員なりそういうヘル  
パーの強化は大事なことで、  
無資格者ではなく有資格者で  
ないとできない事もある。送  
迎等においても、車椅子の方、  
いろいろな方がいるので安全  
面も配慮し、実際にオムツ交  
換などもする場合も想定され  
るので、更なる強化、育成を  
していただきたい。それにつ  
いて、介護職員等についての  
予算化はされてるのか。

**副村長** 当初予算の中では特  
に予算化はしていない。杜協  
の人数は5人ということ、  
なかなか大変だということ  
で交代で事業の合間を見てと  
るので、その時々村の状況、  
介護の仕事の分担をそれぞれ  
割り振る中で必要な介護の研  
修を受けたいと思っており、  
その年によって補正なり、状  
況を勘案して予算化し、研修  
したいと思っている。また今  
の介護の資格でのお話をした  
が、それぞれ県や県杜協の研  
修会等があるので、積極的に  
参加させて、知識の習得と技



術の向上は努めております。

#### ◆片桐雅浩議員

●高齢者の免許返納及びその後の対応、生活支援について

**議員** 根羽村では、公共交通機関といえば、コミュニティバスとお出かけ号になるが、高齢者の方の満足度は決して高くないのが現状。理由は様々だが、一番は病院や買い物に行くのに時間が合わない。必要なときに利用ができない。行きたい場所まで行くことができない。これらが主な原因だと考えられる。村ではこのような現状をどのように認識し、どういった対策を考えているのか。公共交通機関が十分ではない村でどのように交通弱者の足を確保していくつもりか。

**村長** 村民の皆さんの交通移動手段の確保は非常に重要な課題と捉えている。現状の移動手段としては、西部のコミュニティバス、豊田市へのどんぐりバス、村内を回る巡回バスのおでかけ号、それから社協による福祉の有償運送サービス、そしてもう一点交通空白地有償運送サービス、それぞれ行っている。おでかけ号については、既にご承知だと思うが各洞ごとで週2回

運行している。特別に池の平、浅間、一ノ瀬、取手の一部については、利用の際に電話をいただければ、そちらへ回っていくというような段取りになっている。また、福祉の有償運送サービスですが、これは平成18年の4月から根羽村では開始しており、介護度のある方や、障害者の方が利用できるという登録制のもので現在登録者数は30人になる。もう一点、交通空白地の有償運送については令和4年の4月から根羽村では開始した。

これについては、おでかけ号や、西部コミュニティバス等の対応が困難な村民の方あるいはその家族が利用できて、初回の利用するときに登録が必要となっており、1回登録してもらえば登録できる。現在この登録者25人となっている。この福祉有償サービス交通空白地の有償運送についても、どちらも利用前に社協に予約をすれば運行できる体制になっている。現在運転については、有償運送の運転者講習会を受講した方が登録をしており、社協の職員5人と一般の方11人の合計16人がこの有償運送の運転をできる登録になっている。運行の範囲はどちらも、村内は当然で

すが飯田下伊那地域、恵那市、豊田市、新城市、および北設楽郡内でこれは根羽村を発着地とすれば利用できる体制になっている。運行料金については、村内の利用は往復で300円。村外の場合は時間割になっており、1キロ40円と、あと時間割の合算になっている。例えば運送を利用して行かれた場合、飯田市までの往復で4時間の場合は、5200円ぐらいがおおむね今必要とされる形になっており、現在村内では今説明させていただいたようなサービスを行っているのが現状である。

**議員** 民間のタクシーと比較すれば安価なのかもしれないが、月に何度も利用できる金額ではないと思います。月に複数の病院や診療科を受診しなければならぬ方には重い負担になってしまおうと思う。これによつて受診を控えることにならないよう、料金の引き下げや補助金などの検討もしていただきたい。また社員や登録の人もいると思うが、平日限定のサービスや、時間制限があるというように聞くので、そのようなことの解決もお願いをしたい。

高齢者による交通事故を防

止する目的で平成10年に免許返納制度が始まり、各自自治体では返納者に対して様々なサービスや特典が用意され、近隣市町村でも支援政策を作っている。根羽村では70歳以上の方をコミュニティバスの運賃が無償になる補助があるが、これだけでは到底免許返納はできることではないと考える。豊田市が実施したアンケートにはなるが、稲武地区も含まれており参考になると思うのでちょっと聞いてほしい。免許返納で困ることは何かとの問いに対して、外出、病院買い物という答えが多数ありベストスリーだった。日常生活への不安としては、目的の地で弱った体力では歩けない、生活に必要な公共施設、スーパー、病院が周りにない田舎では車の利用はやめられない。農作業やちょっとした外出には車が必要であり、車がなくなるとは日常生活がなくなることでなくなることであり、行動範囲が減ってしまい、健康への返球影響も心配される。こうした意見があった。高齢者の方の中には、運動機能の低下により運転技術が低下し、自動車運転に不安を抱えている方がおられ、そうした方々は、車に

乗りたくて乗っているのではない。できれば運転したくないが、生活できないから仕方なく乗っている。こうした方が一定数おられます。その一方で、車を運転したいが、認知症の検査等により免許更新ができなくなってしまう方もおられ、高齢夫婦の2人暮らしで、今後どうやって生活していくのが本当に困ってしまった。どこに相談すればいいのかといった悩みを語った悩みを抱える方もいる。また納得して免許返納したつもりだったのが畑仕事があるからとつい車に乗ってしまったというような事例もある。こうした様々な問題があり、公共交通機関の補助だけでは対応できない難しい問題だとは思いますが、根羽村は高齢者の免許返納に対する補助制度や、その後の生活支援をどのように考えているのか。社協による有償サービス以外で、村が現在行っていること等ありましたら教えてください。

**村長** 生活するには今議員さんおっしゃったようになくはないものではありますが、一方、高齢によつて事故等が懸念されているのもこれは現実である。かといって高齢だからといって運転手は駄

目という強制もできないという非常に厳しい、難しい問題があるのは事実である。また先ほど申したが令和4年の交通空白地有償運送サービスを導入したわけだが、そのときに社協で住民の皆さんから聞き取り調査を実施して、将来的に外出のための移動手段に不安はあるかとの質問に対し、この当時あったが、今は車を運転できるから心配がないといった意見があったが不安であるとの回答が4割以上。41%の方は不安との話が合った。また併せて高齢者の実態調査。県が実施した根羽村分でじつとしたぶんでありますが、65歳以上の元気な高齢者で外出の移動方法についての問いに対しては本人が運転する自動車が78%、家族や知人をしてもらうのが31%、それ以外がバスや徒歩となっているわけだが、65歳以上の元気な方ということで一概にはあまり参考にはならないかと思うが、いずれにしても、自分で運転することが非常に重要となっているのが現状。村では免許で高齢者の免許返納者に対して直接な補助制度は設けていないのが現状であり、免許証返納を進めるための補助も必要ではあ

ると思うが、それ以上に免許返納後の移動手段をどう確保していくかというのが大きな問題だと理解している。それで西部のコミュニティバスとか豊田どんぐりバスについてはバス停まで出てくるという課題があり、時間や便数にも当然限りがあるのも現状。お出かけものについても同じ問題があり、実はある程度の経路以外はどうしても出てこなくてはいけないとの問題があり、自宅までの運行経路等の変更や便数等の検討も必要であると考えたこともあるが、非常にまた後ほどちよっとお話ししますが難しい問題があるかと思う。それから、福祉の有償運送サービスは、この介護のある方とか障害のある方に限られるわけだが一方、交通空白地の有償運送サービスは非常に自由度が高い制度であり、いわゆるタクシーと同じという言い方は非常に語弊があるわけであるが、使い勝手がいい制度であるので、この制度の周知や利用について改めてしっかりとPRしていきたいと思っている。料金について課題があると思います。村内の300円は往復ですので適当かと思うが、長距離の費用をどうす

るかとは先ほど言った金額が、高くないかと感じている。これについてはまた検討が必要だと思っている。いずれにしても交通空白地帯有償運送サービスの利用が非常に有効的だと考えており、社協また村の方もしっかりとPRをしていきたいと考えている。あわせてできるだけ多くの人に登録してもらい運行ができる体制や、夜中の利用が非常に難しいかもしれないが、そういった利用についてもいろんな形で融通がきけるようになるかといえる。いずれにいたしましても、これから高齢者の方が運転免許証を返納するサービスについては、そういった車両の利用に対して何らかの補助をするとか検討していかなければと考えている。

**議員** この問題は総合的な支援が必要であると考えています村独自の政策が必要であり、そのための予算も発生してくると思う。病院に行くのにシルバー人材センターに頼んで運転してもらう方もいるが、これも全額自己負担です。自車がある場合はガソリン代と運転手段を出さなければならぬ。ここにも補助が出るような仕組みができない

か。また村にはタクシーがないが、運転手として活用できる人を登録してもらい行政が用意した車両による運転代行サービスを行ってもらうのも1つの案だと考えます。新しい仕組みを作っていくのであれば免許返納者や交通弱者を村で暮らし続けていくことができないかと思う。公共交通機関の更なる充実も選択肢だと考える。現在のおでかけ号の運行数の増便や、タクシーとしての利用ができないか、また愛知や岐阜方面への利便性の向上ができないかなど地元業者との協議をしていただく必要もあるのではないかと。また現在行っているが社協やなごみの職員による買い物支援の一層の拡充も必要になってくると思う。また、各種事業所による宅配サービス等にも一定の補助ができるようにはならないか。行政がこの他にも考えられることはたくさんあると思いますが、行政として何ができるのか、まずはすぐに行動を起こしていただきたいと考えるがいかがか。

**村長** 西部コミュニティバスについて以前まで乗り入れを検討しているが、まだ解決する課題がたくさんあり、実施にはいたっていないが、近い将来には飯田市までの利用についても何らかの方法を検討、方向を出していきたいということでは協議会では話題にしている。また、おでかけ号については家の近くまで運行するためにはバス停を多くすることが必要であり、今後考えられることは、各地で流行っているが予約のある場合に運行するデマンドバス方式、そういったものも考えられる。ただデマンドバスの場合には定期的に走っていないことから、逆に定期的に利用した人にとっては非常に不便さが生じるのではとの課題もある。この点については少し検討が必要であると思っております、現在検討しておりますが、もう少ししっかりと検討していきたいと思っております。住民が自動車自家用タクシー業務を担うのが、いわゆる福祉有償運送サービスと交通空白地の有償運送サービスの許可を得た制度であり、特に交通空白地帯の有償サービスをしっかりと有効に使ってもらうことにより、交通移動手段の確保がある程度は図れるのではと思うので、積極的にPRと利用を呼びかけていきたいと思う。それからこの有償運送サービスについては、利用料



は基本的に決められた個人負担となっており、高齢者の運転免許証の返納者については、こういった利用の全部というわけにいかずとも回数利用を免除するなど特典といえますか、補助も必要であると考えている。それから地元の方の協力でそれぞれ買い物の際の送迎サービス、商店の皆さん方、積極的に行っていたいておりますが、一度具体的にどういった利用があるのかご負担をお聞きする中で、何らかの形で支援をしていきたいと考えており、一度そういった調査、お話をさせていただきたいと思っています。

### ●海外研修事業について

議員 根羽学園の七、八年生

が3月22日からシンガポールに海外研修旅行に行きます。国内ではなく海外に研修に行けるようになり本当に良かったと考えている。村主催の研修事業であるが、保護者も一定の代金を払って参加するもので、保護者の意見を聞くのは当然だと考える。また、海外研修事業なので、疫病の蔓延や社会情勢不安がない限り、海外に行くのが当たり前だと考える。グローバル化が進む世界で、若いうちに海外に

行ける機会は重要であると考える。多感な時期だからこそ、海外に行つて、何を感じるかは非常に大切だと考える。今回も研修事業終了後、アンケート調査等を行い、生徒の意見、保護者の意見を丁寧に聞いていただき、研修事業がより良くなるように村としても動いていただきたい。村と旅行会社の間で約束でもあったのか、そう言われても仕方ないのないような事業決定をするのではなく、子供たちを一番に考えて事業を決定していきたいと思うが、教育長のお考えをお聞かせ願いたい。

教育長 海外研修事業についてはご指摘のように、紆余曲折を経つつ、本来の形に戻り、保護者の皆様にご理解いただけたということとで本当に良かったなと思つている。今後

もご指摘のように、生徒保護者の声を聞いて、中心に沿う形の研修事業を進めてまいります。ご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

## 条例

◆刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理等に関する条例

◆番号法の改正に伴う関係条

例の整理に関する条例

◆根羽村職員の勤務時間及び休暇などに関する条例並び

職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例

◆一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

◆根羽村第1号会計年度任用職員等の報酬等に関する条例及び根羽村第2号会計年度任用職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

◆根羽村営住宅使用料条例の一部を改正する条例

◆消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例

◆根羽村非常勤消防団員に係る退職報奨金の支給に関する条例の一部を改正する条例

◆国の法律等の改正に伴い条例の制定がされました。

## 報告

◆令和6年度根羽村一般会計補正予算(第6号)の専決処分の承認について

物価高騰対策支援金等により、1425万2000円余を追加し、総額

24億2351万8000円余となりました。

## 補正予算

◆令和6年度根羽村一般会計補正予算(第7号)

防災倉庫及び給水車整備等により、3385万4000円余を追加し、総額27億3424万円余となりました。

◆令和6年度根羽村国民健康保険特別会計補正予算(第1号)

療養給付費の確定見込により、1330万円を減額し、総額9070万円余となりました。

◆令和4年度根羽村介護保険特別会計補正予算(第2号)

介護サービス等諸費確定見込みにより、2860万9000円を減額し、総額2億1562万4000円余となりました。

◆令和6年度根羽村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

後期高齢者医療広域連合納付金の確定見込みにより、340万円を減額し、総額1860万円余となりました。

◆令和6年度根羽村簡易水道事業会計補正予算(第4号)

施設補修工事費等により、1430万円を減額し、総額5622万7000円余となりました。

◆令和6年度根羽村下水道事業会計補正予算(第3号)

根羽地区光熱水費等により、130万円を減額し、総額6515万円余となりました。

## 当初予算

◆令和7年度根羽村一般会計予算

◆令和7年度根羽村国民健康保険特別会計予算

◆令和7年度根羽村介護保険特別会計予算

◆令和7年度根羽村営バス特別会計予算

◆令和7年度根羽村後期高齢者医療特別会計予算

◆令和7年度根羽村簡易水道特別会計予算

◆令和7年度根羽村下水道特別会計予算

全て原案どおり可決されました。(詳細については24ページをご覧ください。)

## その他

◆副村長の選任につき同意を求めることについて

原案の通り同意されました。

◆根羽村公の施設の指定管理について

原案の通り可決されました。





令和7年度根羽村消防団役員

令和7年度の消防団の役員は次のとおりとなりました。今後とも消防団活動に対し村民の皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、火災予防にも努めて頂きますようお願い致します。

団 長 鈴木 孝宏  
副団長 松下 剛樹  
本部長 原 淳也  
旗 手 大久保裕貴  
第一分団 分団長 松下 龍一  
副分団長 片桐誠太郎  
〃 片桐 匡朗

人の動き

役場職員の異動

◇新規採用（4月1日付）

住民課 安藤 清隆

振興課 林 涼介（長野県 根羽村）

教育委員会（会計年度任用職員）  
中村 睦子（長野県 飯田市）

◇異動（4月1日付）

総務課 西尾 好恵（住民課）  
総務課 片桐 充貴（長野県派遣）

住民課 石原 幸伸（総務課）

根羽学園転退職学校職員

根羽学園学校職員の方々が、年度末の人事異動により、次のように異動されました。

【転出】

塚田 晃裕教頭先生（飯田市立千栄小学校へ）  
倉掛 義則先生（辰野町立辰野中学校へ）

森田 真帆先生（生坂村立生坂中学校へ）  
宮坂 真成先生（飯田市立鼎中学校へ）

一ノ瀬翔太先生（飯田市立鼎小学校へ）  
米山 紡先生（南箕輪村立南部小学校へ）

林 一之先生（飯田市立旭ヶ丘中学校へ）  
宮下 征司教頭先生（上田市立本原小学校より）

小池 香澄先生（須坂市立相森中学校より）  
関島 未帆先生（新規採用）  
吉村 嶺花先生（小諸市立千曲小学校より）

南澤 希奈先生（新規採用）  
永井 祐也先生（飯田市立下久堅小学校より）  
浦山 康平先生（茅野市立玉川小学校より）

【転入】

菅沼 則之先生（飯田市立鼎中学校より）

軽自動車税は納期限内に納税をお願いします。

軽自動車税は毎年4月1日に車両を所有している人に課税されます。  
納期限は4月30日（水）です。  
納税通知書は4月中旬に郵送いたします。

■現金納付の方

金融機関又は役場会計へ、納期限までに納めてください。

■口座振替の方

指定口座から4月25日（金）に引落します。預貯金残高をお確かめいただき、振替不能とならないようお願いいたします。口座振替の場合、領収書は発行されませんので、ご了承ください。

※軽自動車税の車検を受ける場合、今までは納税証明書の提示が必要でしたが、2023年1月から、軽自動車検査協会の継続検査窓口での納税証明書の提示が、原則不要になりました。車検時は、納税証明書の提示にかわり、軽自動車検査協会

で軽自動車税納付確認システム（軽JNKS）を使って納付状況を確認します。対象車種…四輪三輪二輪被けん引車

※納税証明書の提示が必要となる場合

軽自動車税種別割を納付したにもかかわらず、軽JNKSに納付情報が登録されていない場合などは、従来の納税証明書が必要となります。

・納付したばかりのため、軽JNKSに納付情報が登録されていない場合

・中古車の購入直後の場合

・ほかの市町村へ引っ越した直後の場合

・対象車両に過去の未納がある場合

また、二輪の小型自動車（総排気量250cc超）は対象外のため、車検時にはこれまでどおり納税証明書の提示が必要です。

お問い合わせ 役場総務課  
Tel 492111

自動車税の納期限は6月2日（月）です。

長野県から自動車税納税通知書を発送します。  
5月中旬にはお手元に届きますので、納期限内のご納付をお願いします。

コンビニエンスストア・県税事務所、金融機関での納付のほか、ス

固定資産税の縦覧・閲覧制度のご利用案内

閲覧・縦覧期間	令和7年4月1日（火）～令和7年5月31日（土）（土日祝日除く） ※取扱時間は午前8時30分から午後5時00分まで	閲覧・縦覧場所	役場（総務課窓口）
閲覧・縦覧できる方	1. 固定資産税の納税者本人、本人から委任を受けた同一世帯の親族、納税管理人 2. 代理人（委任状をお持ちの方）（閲覧は上記の方に加えて） 3. 借地人、借家人（賃貸借契約書をお持ちの方） 4. 賦課期日（1月1日）以降の新所有者（売買契約書、登記等をお持ちの方）		
必要なもの	・本人確認書類（運転免許証、マイナンバーカードなど） ※顔写真のない健康保険証などは2点以上後用意ください。 ・代理人の場合は委任状、相続人の場合は戸籍謄本など （閲覧は上記に加えて）納税義務者ご本人以外の方が窓口へこられる場合には、その他必要なものがある場合があります。あらかじめお問い合わせください。		

# 森林の未来を拓く—根羽村の挑戦

長野県の南端に位置する根羽村が、2024年度より長野県の「輝く農山村地域創造プロジェクト」の地域に選ばれた。長野県全77市町村の中から、地域資源を活かし新たな価値を生み出そうとする意欲的な自治体が選ばれるこの事業。初年度は2市町村が選出されたが、そのうちのひとつに根羽村が選ばれた。

## 森林資源の新たな可能性

根羽が選ばれたテーマは「森林」。しかし、この事業で期待されることは単なる木材利用の発展ではなく、これまでにない森林の新たな価値を見出すことだ。これまでの林業の枠を超え、森林を多角的に活用することで、持続可能な地域モデルを築き挑戦する地域として選出された。トータル林業、木育活動、流域連携など、様々な取り組みを行いつづけてきた功績と言えるだろう。

この取り組みは3年間のプロジェクトで、県から、人的・技術的・財政的な支援が行われる。2024年度は「現在地の把握をしっかりと行った上での戦略策定」に重きを置き、信州大学や伊那市の株式会社やまとわと連携。村内外の関係者の声を丁寧に拾い上げ、根羽村の強みを生かした戦略を練り上げていった。



## 矢作川源流の村が描く未来

連携協力者から指摘されたことは、根羽村の強みは大きく3つあること。1つは矢作川の源流に位置すること。2つは小さな村で森林組合を持ち、製材工場まで保持すること。3つは役場と森林組合が一体となって取り組める体制があること。これらの特性を活かし、矢作川流域の企業や住民をメインターゲットとし、流域沿いの様々な声に柔軟に対応しながら、応援したくなり、一緒に共創したくなる存在となることが重要という方向が見えてきた。

この戦略を元に営業活動を行った結果、2024年度だけで新たに3つの企業との連携が進み、従来の連携企業に加えて、多様な企業と様々な取り組みを行うことができた。根羽村をフィールドとした活動が広がるだけでなく、東海圏で根羽村や森林保全のPRを行う活動にもつながっており、今後のさらなる展開も見据えている。





## 「木」を纏い、「森」を味わう

商品開発にも力が入る。「木の布プロジェクト」は、木材を繊維素材として活用する試みで、ジャケットの商品化が決定し販売が始まった。さらに、大阪万博のユニフォームに採択されるという快挙を成し遂げた。

また、森林資源を活用した新たな商品展開も進行中だ。森林組合は木材を使った組立式タイニーハウス（狭小住宅：H u t）を開発し販売を開始した。さらに、レーザープリンターを導入し、木材加工の可能性を拓いている。

「森を食材として取り扱う」プロジェクトも進行している。新たな飲料体験を提供する企業と協力し、森林の香りを抽出したお茶を試作。また、東海圏のシェフとコラボし、キャラメルやチョコレートなどの開発にも挑戦している。村の学生にもこの活動は波及し、根羽学園の8年生が杉のパウンドケーキづくりに挑戦している。



## 未来へ向けた学びと実践

森林を建材にとどまらず、異業種とのコラボを通じて新たな価値を創造する。その可能性をさらに追求するために、2025年1月から2月にかけて「森とまちの流域学」という勉強会を3回開催。全国の先進事例を持つ実践者を招き、知見を深めた。来村いただいた実践者にも根羽村の取り組みや想いを聞いてもらい、有益なアドバイスをいただいた。

流域がつながり合う経済圏を考える全3回のトークイベント

### 根羽村 森とまちの流域学

2025年1月23日 木 1月31日 金 2月6日 木

時間：全回 15時 - 18時 会場：根羽村役場 やまあいホール



2024年度で培った戦略と経験をもとに、2025年度はこれらを事業化する1年となる。根羽村の挑戦は、単なる地方創生にとどまらず、森林の未来を拓く新たなモデルとなるかもしれない。村の9割を占める森が、再び輝く宝になる未来を目指して。

## 樋口明氏(下町)

## 旭日単光章を授与される

12月30日で満88歳になりました、樋口明氏は昭和62年5月、地域住民より推されて根羽村議会議員に当選し、以来平成19年4月までの、4期16年の永きに亘り在職し、特に平成17年4月から19年4月までの2年間は議長として、議会の円滑な運営にご尽力されました。また、昭和37年1月から昭和60年3月までの22年3ヶ月に亘り、根羽村消防団に在籍し、その間、昭和53年1月から昭和57年2月までの4年間は、消防団副団長として、昭和57年3月から昭和60年3月までの3年間は消防団団長として、地域の安全、住民の生命、財産を守るため、ご尽力いただきました。また、平成6年5月から平成26年5月までの20年間、保護司として社会奉仕の精神を持ち明るい社会の推進にご尽力いただきました。

この度、これらの功績が認められ、日本国天皇より「旭日単光章」を授与され3月5日にやまあいホールで伝達式が行われました。心からお祝い申し上げます。



## 地域おこし協力隊の報告

## 山本英介



5年間根羽村の林業に従事してきた中で最も感じたことは、「自然に逆らわないことの大事さ」であるように思います。木は倒しやすい方向に倒す、地形に沿って集材する、開設しやすい場所に作業道をつける。逆のことをやると、当然コスト高で赤字になりかつ危険度も増します。少し古いデータですが2011年の調査によると、木材生産1立方メートルあたりの「補助金額」は、フィンランド140円、ドイツ400円、日本は30,770円。日本の林業は国際的に見れば、桁違いに「自然に逆らって」無理をしているのかもしれない。

## 金邊達也

地域おこし協力隊5年目の金邊です。新型コロナウイルスによる任期特例の適用により、従来の3年間の任期から2年延長して、いよいよ最終年度が終わろうとしています。

これまで何度か寄稿しています通り、ケーブルテレビの番組制作や村内外へ向けた撮影素材提供や発信を主な業務内容として、活動して参りました。

様々な分野で撮影の依頼をいただき足を運ぶ機会になったことや、ケーブルテレビという目に見える成果物があっただけで色々な方にお声がけいただけたり。成果を数字で測ることは難しいかもしれませんが、僕自身は確かなやりがいを感じながら、そしてこの村の暮らしを楽しみながら、協力隊の業務にあたることができました。

ひとえに周りの支えがあって、成り立ったものと感じています。ありがとうございました。

今後は協力隊ではなく、集落支援員としてこれまでの業務を継続して村の情報発信に関わらせていただくことになります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





# 地域おこし協力隊の報告

白根 拓実



根羽村に移住をして2年間、早い。協力隊2年目の1年間は、新しいことへのチャレンジとして多くの経験を積んだ年となりました。協力隊活動として、引き続き空き家の相談窓口対応を行い、今年度の空き家利活用のマッチングは2件となりました。メインは企画拠点として、旧若松旅館の改修。「シラネバ」は一旦形になり、お披露目をすることもできました。改修期間、6日間行った空き家DIY改修イベントは延100人程が根羽村に訪問し、地域内外から参加してくれました。また「ネバーデイ」という村内で行ったマーケットのイベントや、不動産としての知識をつけるために、3ヶ月の不動産研修にも参加し、不動産を一つの武器とした地域づくりを学ぶ機会となりました。実際に実務経験としてレベルアップすることとなりました。来年以降も、多くの事象が起こる予感がしています。毎月区長便で発行している、空き家のすすめで発信。そして、シラネバにてお待ちしております。気になる方は、お気軽にお越しください。

阪口 凱海

## 根羽村民としての暮らしをはじめて…

早いもので、根羽村の地域おこし協力隊として働き始めてからまもなく一年が経とうとしています。「地元を離れて知り合い一人いない村へ来ること」、「教師を辞めること」の2つは私にとっては大きな挑戦でしたが、本当にアクションを起こせて良かったと思っています。

放課後子ども教室の業務は、私にとって子どもとワイワイ楽しむもの。根羽村の子どもたちは素直で元気な子どもばかりです。長期休みにはイベント企画も多く実施し、これがまた私にとっての新たな挑戦となっています。思いついたことを実行しやすいのもこのポジション、この村ならではの感覚です。ICT・総合コーディネーターとして学校に出入りできるのも現場が好きな私にとっては大変魅力的です。まもなく協力隊2年目。私にできることを更に磨き、様々なアクションを起こしていきたいと思います。



小正 理文



この1年間、地域おこし協力隊として根羽村で活動し、多くの挑戦と学びがありました。根羽学園では特別支援員として子どもたちの学びを支援し、村営塾の塾長として5～9年生を対象に学習指導を行いました。塾では模試を実施し、生徒たちに偏差値を実感させることで、高校進学への意識を高め、新たな目標を持たせることができました。教育支援が活動の中心でしたが、地域の暮らしを深く知るために畑や狩猟にも取り組み、自然と共に生きる生活を体験。村の皆さんとの交流を通じて、根羽村の魅力や課題を理解しました。今後は、子どもだけでなく、もっと広い世代の学びに貢献していきたいと考えています。



## 第27回福祉と健康のつどい

令和7年3月1日（土）に、第27回福祉と健康のつどい」が盛大に役場で開催されました。

午前の部

根羽村功労者表彰及び根羽村社会福祉協議会功労者表彰の式典  
足助病院の理学療法士生駒先生による「座ってできる健康体操」  
午後の部

お笑いタレントの山田邦子さんによる「大丈夫だよ、がんばろう」と題した講演会（大杉大学共催）が開かれました。

山田邦子さんは、ステージから降壇し村民の間で御自身の体験談を交え、終始笑いの絶えない話術で参加者の心をつかみ、会場全体が一体となった素晴らしい講演会となりました。  
当日は右記



お笑いタレント  
山田邦子さんの講演会  
「大丈夫だよ、がんばろう」



のほか足助病院の看護師さんたちによる健康相談会、認知症予防（頭の体操）教室等、キッズコーナーでのビンゴゲーム等に加え、会場入り口では杉っ子、ぼてとの会、ポップコーン屋さん、傾聴ボランティア「和」による各種販売も行われ、会場に花を添えていただき大勢の方々にご参加いただきました。



足助病院生駒先生による「座ってできる健康体操」



健康相談・頭の体操コーナー

## 令和6年度

## 根羽村功労者表彰

村では、行政・経済・文化・その他各方面で顕著な功績や他の模範となる善行による優れた皆さんや団体を表彰しています。

この表彰は、表彰審査委員会の答申を受けて行うもので、3月1日の福祉と健康の集いの会場で表彰されました。表彰者は次のとおりです。  
令和6年度の表彰者は次のとおりです。

## ●功労者

松下 忠 司 様（自治）  
永田 完 道 様（自治）  
石原 武 敏 様（消防）  
浅井 重 治 様（消防）



根羽村功労者表彰

## ●感謝状

安成工業(株) 様 安城市  
（企業版ふるさと納税制度による物品の寄附）

根羽村社会福祉協議会  
功労者表彰

根羽村社会福祉協議会では、社会福祉協議会の活動に顕著な功績をあげ、福祉に貢献された個人または団体を、表彰審査委員会の選考により社会福祉功労者として表彰しました。

佐々木 秀 彦 様  
鈴木 眸 様  
高柳 好子 様  
下田 のぶ子 様  
石原 稔 明 様  
片桐 久 徳 様



根羽村社会福祉協議会功労者表彰





# 国民健康保険について

## 国保のしくみ

国保とは、病気やけがをしたときに安心してお医者さんへかかれるように、加入者（被保険者）がお金（国保税）を出し合って、医療費の一部を負担する制度です。

## 国保に加入する人

職場の健康保険等に参加している人、後期高齢者医療制度の対象者、生活保護を受けている人以外のすべての方が国保の加入者となり届出が必要です。

※加入は世帯ごととなり、加入に関する届出義務は世帯主です。印鑑及び必要書類をご持参ください。届出は、取得や喪失の事由が発生した時から 14 日以内に役場窓口へ申請してください。

### 加入するとき

- ・ 職場の健康保険等の資格を喪失したとき（退職日の翌日）
- ・ 家族の職場の健康保険の被扶養者の資格を喪失したとき
- ・ 他市町村から転入したとき
- ・ 子どもが生まれたとき
- ・ 生活保護を受けなくなったとき

### やめるとき

- ・ 職場の健康保険等に参加したとき
- ・ 家族の職場の健康保険の被扶養者となったとき
- ・ 他市町村へ転出したとき
- ・ 死亡したとき
- ・ 生活保護を受け始めたとき
- ・ 後期高齢者医療制度の対象となったとき（75 歳の誕生日から）

## その他の手続き

- ・ 村内で住所が変わったとき
- ・ 世帯主変更や氏名が変わったとき
- ・ 世帯を分けたとき又は一緒にしたとき
- ・ 修学のため、村外に転出したとき（在学証明書、転出先の住民票の写し）

※修学による保険証をお持ちの方は、学校卒業と同時に現住所地の国民健康保険又は就職先の健康保険に加入する必要があるため、卒業証明書の写しを添えて届け出る必要があります。

- ・ 資格確認書（マイナンバーカード）をなくしたとき（汚れて使えなくなったとき）

### 【注 意】

☆非課税世帯の方や 70 歳以上の現役並みの方が入院する場合は、限度額認定証等の発行申請を役場で行ってから入院することで、医療機関での窓口負担や食事療養費の支払いが安くなる場合がありますのでご相談ください。



## 届け出がおくれると…

- ◆資格確認書等がない期間の医療費はやむを得ない場合を除き全額自己負担となります。また、保険税は届け出をした日からの加入ではなく、資格を得た日までさかのぼって支払うことになります。

### 【遡及賦課】

- ◆資格のない資格確認書等で医療機関を受診した場合、医療費の返還をしなければなりません。

# 国民健康保険についての注意

## 注意 1 国保（資格確認書等）が使えないとき

次のような場合は保険証が使えませんのでご注意ください。

※労災保険の対象となるとき……業務上（仕事や通勤途中）の病気や怪我。

### 病気とみなされないとき

- 疲労や倦怠
- 健康診断・人間ドック
- 正常な妊娠・出産
- 歯列矯正
- 経済上の理由による妊娠中絶
- 予防注射
- 美容整形
- 軽度のわきが・シミ・アザ等

※給付が制限されるとき……故意の犯罪行為や故意の怪我、けんかや泥酔による病気や怪我、医師や保険者の指示に従わなかったとき

## 注意 2 交通事故にあったとき（第三者行為の場合は、必ず国保担当へ届出をしてください）

交通事故など、第三者から傷病を受けた場合も、国保でお医者さんにかかることができます。その際は、必ず役場の国保担当に連絡して「第三者行為による傷病届」を提出してください。

加害者から治療費を受け取ったり、示談を済ませてしまうと国保が使えなくなる場合があります。示談の前に必ず役場国保担当にご連絡ください。

### ◆注意 2 の届出に必要なもの

- 事故証明書（後日でも可）
- 資格確認証等
- 印鑑
- 本人確認書類及びマイナンバーが確認できる書類



## 【注意】次の場合は国保が使えません!!!

### 第三者行為 による事故とは…

- 交通事故など第三者の行為によるけが
- 他人の落下物によるけが
- 他人の飼い犬にかまれた
- 傷害事件に巻き込まれた
- スキー・スノーボード等での衝突・接触事故など
- 示談を済ませてしまった
- 勤務中や通勤中の事故 → 労災保険
- 不法行為（飲酒運転や無免許運転等）



※マイナンバーカードが保険証として利用できるようになりました。  
マイナ保険証\*をお持ちでなくても、これまでのとおり医療は受けられます。  
（\*マイナンバーカードの保険証略して“マイナ保険証”）





さんまる・いちまる

あるを尽くして  
残さず食べよう！

## 30・10運動

宴会たべきりキャンペーン実施中！

さんまる

30



乾杯後の30分間

は席で料理を楽しもう！

いちまる

10



お開き前の10分間

は席に戻りあるを尽くそう！

幹事さんは声かけをお願いします！

## 30・10運動ってなに？

楽しかった宴会が終わりに近づいた頃、ふとテーブルの上を見るとたくさんのお料理が残っている！こんな経験はありませんか？

宴会ではたくさんの料理が残ってしまいがちです。「もったいない」ですね。

「30・10運動」とは、松本市発祥の食べ残しを減らすために、「最初の30分間」と「最後の10分間」は自分の席についてお料理を楽しむという運動です。

「たべきり」で気持ちのいい宴会にしましょう！

あなたも30・10運動に参加してみませんか？



しあわせバレイ信州

発行：長野県環境部資源循環推進課

病院？ 救急車？ 迷ったら！！

シャープ ななの ひゃく じゅー きゅーばん！



※ダイヤル回線・IP電話回線の場合は「026-231-3021」へ

看護師のアドバイスが受けられます。

受付時間	平日：19時～翌8時 土・日・祝日：8時～翌8時
------	-----------------------------

こども（概ね15歳未満）は  
#8000へ  
受付時間：毎日19時から翌8時まで

⚠ 緊急時は迷わず119番



長野県HP

## ハンセン病元患者のご家族へ



～対象となる方々に「補償金」を支給します。秘密は守られます。～

○秘密は守られますので、まずは、お電話でご相談ください。

○この補償金は、法に基づき、ハンセン病元患者家族の被った精神的苦痛を慰謝するためのものです。

○補償金額：180万円または130万円 ※一部同居等の要件あり

厚生労働省 補償金相談窓口

電話番号 03-3595-2262

受付時間 10：00～16：00

(月曜日から金曜日。土日祝日、年末年始を除く。)



請求期限は、令和11年（2029年）11月21日まで

ハンセン病問題を正しく理解し、偏見や差別のない社会の実現を目指しましょう。

ハンセン病 厚労省 Q 検索

# さんまる いちまる？ 30・10 運動って？



あなたも30・10運動に  
参加してみませんか？



発行：長野県環境部資源循環推進課

しあわせバザール信州



参加費  
無料

はんいれんごうりょうゆうかい  
飯伊連合猟友会

# 第17回 狩猟体験講座

(新規狩猟者確保講座)

開催日 令和7年  
6月22日(日)

未来のハンター予備軍のみなさん！  
私たちはいつでもあなたとの出会いを待っています！



## プログラム内容

- ・クレー射撃見学
- ・シカ解体体験
- ・山肉料理試食
- ・くくりわな設置体験 などなど盛沢山です



猟犬は大切なパートナー

日 時

令和7年6月22日(日) 雨天決行  
受付開始 午後12時30分  
講座開始 午後1時(午後4時30分終了)

場 所

飯田国際射撃場(飯田市大瀬木 2554-104)

募集人数

40名(先着順)

主 催

はんいれんごうりょうゆうかい  
飯伊連合猟友会

お問合先

飯伊連合猟友会事務局

お申込先

メールでお申し込みをお願いします

住所・氏名・携帯電話番号をご記入下さい

メールアドレス [huntertaiken@gmail.com](mailto:huntertaiken@gmail.com)



飯田国際射撃場  
地図



申し込み  
メールアドレス





広報

ねば

2025.Mar. No.227

【人口と世帯】総人口 807人／男 412人／女 395人  
世帯数 401世帯（令和7年2月28日現在）

【村の木】すぎ 【村の花】若つつじ

URL/<http://nebamura.jp/> E-mail/[sounmu4102@nebamura.jp](mailto:sounmu4102@nebamura.jp) 発行/根羽村役場 住所/〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村213-1-1  
TEL/0265-49-2111 FAX/0265-49-2277



# 杉っ子 だより



## 根羽学園 卒業式

3月19日に根羽学園の卒業式が行われました。

今年の卒業生は1名でしたが、多くの来賓の方をお招きし、盛大に挙行されました。

学校長式辞では、馬島校長先生から、卒業生の学校での一層の成長を感じられる内容のお話がありました。

卒業生の答辞では、「卒業後、困難なことにたくさん出会うと思いますが、根羽村での経験を糧に乗り越えていきたいと思います。」という心強い言葉がありました。

生徒一人の学年ということで、根羽学園での生活でも多くの苦労があったことと思います。今後も根羽で学んだことを胸に頑張っていたきたいと思います。

卒業生の益々のご活躍をお祈りします。

## 根羽学園 修了式

3月18日に根羽学園の修了式が行われました。

6年生が義務教育学校の前期課程を修了した区切りの式として、毎年举行しています。

今年度の6年生6名は、ひとりひとり修了証書を授与された後、ステージの上で、親への感謝の言葉や後期課程に進学する意気込みを発表しました。

馬島校長先生のお話では、具体的な場面を交えて6年生の学校生活での成長した姿や、後期課程へ向けての励ましの言葉をお話くださいました。

保護者が見守る中、6年生の成長が感じられる式となりました。

